



## 1 課題

生活デザイン・工学研究所（東広島市、マツダ、博報堂）を設立し、福富地域で地域活性化に向けた様々な取組みを企図しているが、廃校活用や里山整備には専門的な知見が必要である。特に廃校活用は、利便性のみならず象徴性のあるデザインが重要であり、意匠だけではなく地域に詳しい研究者の支援が重要である。

## 2 概要

廃校となった竹仁小学校の空間的価値を建築意匠学的に明らかにし、場所や地域性を付与した建物のリノベーションの提案を行う。

大学

谷川 大輔

近畿大学

工学部建築学科 准教授



市担当課

×

総務部政策推進監

関係機関

マツダ株式会社  
株式会社博報堂

▲「森」に囲まれた廃校の利用に係る模型を作成・展示



▲アクアフェスタin福富で活動を発表



▲メディアでの掲載  
(R5.10.12プレスネット)

## 3 研究成果 手法等の構築

旧竹仁小学校の廃校リノベーションに向けて、学生と共に周辺環境の調査を行い、1/1000の模型を作成した。また、旧竹仁小学校の敷地調査等を行い、周辺の1/200の模型を作成したことで、敷地環境と建物の特徴を把握し、また、具体的な活動がイメージできる1/100及び1/50の模型を作成して、それを地域住民及び関係者で共有することで、良好な関係を築くことが出来た。

## 4 今後の展望・現状 担当課で事業実施

令和6年度の「未来都市形成事業」として事業化。引き続き地域の協議体で議論を継続している。